



syoun



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

災害実動訓練

令和元年9月1日(日)、人吉市総合防災訓練が実施され、当院も共催として災害実動訓練を行いました。

被害想定は、午前8時30分到人吉盆地南縁断層を震源とするマグニチュード7.1の震度6強の地震を観測し、多数の被害者が発生と設定。発災直後に当院本館4階に災害対策本部を設置。職員は避難行動をとり、各部署責任者は被災状況を把握し本部へ報告。正面玄関前には被害者の治療緊急度を判断するトリアージエリアを展開し、重症群(赤エリア)、中等症群(黄エリア)、軽症群(緑エリア)に分かれ緊急治療を行いました。当院職員280名が参加し、地域協会の皆さんや人吉アマチュア

無線クラブの皆さん、下球磨消防組合職員の皆さんと多くの方にご協力頂きました。

また、この訓練実施の数ヶ月前より災害対策・防火委員会では、災害時における通信方法・災害時カルテ運用の検討、各エリアリーダー説明会、担架搬送訓練、無線指導等を行ってきました。

毎年実施していますが今回の訓練からも問題点や反省点を見だし、今後に生かしていきたいです。

災害はいつ襲ってくるかわかりません。当地域医療圏の災害拠点病院として、医療従事者としてということを念頭に迅速に対応できるよう、職員一同努めて参ります。

災害対策・防火委員会 書記 嶋原 由美子



病院フェスティバル

9月1日(日)より今回で12回目となる人吉医療センターフェスティバルが開催されました。今年は早朝より雨が降りましたが、皆さんの強い思いで雨も上がり来場者数も600名を超える大盛況となりました。ご来場いただいた方々、開催にご協力いただいた方々、誠にありがとうございました。

フェスティバルでは各部署がそれぞれ工夫を凝らし、健康についての意識を高めてもらう取り組みや医療センターについてより知ってもらおうとブースを設置しました。また、「健康保険が使え、費用が安く、副作用のないがん治療があるのをご存

知ですか?」と題した市民公開講座、人吉医療センター APC チームの劇もあり、150名以上が熱心に聞き入っていました。私は栄養管理室の「手作り飴教室」を担当し、りんご・ぶどう飴、マシュマロ飴づくりを体験していただきました。ブース外にも列ができており、多くの子どもたちが笑顔で飴づくりを楽しんでくれたのではないかと思います。

来年もよりよいフェスティバルを作り上げられるよう頑張ってお参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

栄養管理室 管理栄養士 芝田 彩夏



人吉医療センター地域研修会

帰ってきた 認定看護師の ちょっとためになる話

当院の認定看護師は12分野14名で構成する認定看護師会として、活動を行ってきました。認定看護師会では、これまで地域の病院に向けて研修を行ってきましたが、本年度は病院ではなく、介護施設や訪問看護ステーション対象の研修を2回開催することになりました。

9月7日(土)上記のように銘打って第1回「がん医療とスキンケア」を開催しました。がん化学療法看護認定看護師からがん免疫薬物療法について、がん放射線療法看護認定看護師から

がん放射線治療について、乳がん看護認定看護師から乳がん早期発見のために自己触診について、皮膚・排泄ケア認定看護師からスキンケアについてお話ししました。今回は、病院および訪問看護ステーションからの参加があり、熱心にメモを取りながら聞かれている方や講義後に質問される方もおられました。「今後の業務に活かそう」「今後も認定看護師主催の研修に参加したい」という感想を頂きました。

第2回は11月16日(土)開催予定です。講師は、感染管理、手術看護、救急看護、糖尿病看護、脳卒中リハビリテーション看護の5分野の認定看護師の予定です。今回の研修会もたくさんのご参加をお待ちしております。

看護部 繁富 香

救急看護認定看護師 誕生！

超高齢化社会、2025年問題が現実のものとなってきた昨今において、当院でもその現状が現れてきています。救急外来を受診した患者数は7608名を超え、年々その数を増やしております。その中でも受診される救急患者の年齢層も高齢化してきており、特に80歳代が増加している現状があります。

高齢者が増加する中で、医師不足や看護師不足により医療が十分に提供できない地域もあります。

このような厳しい状況の中で、救急の場では、時、人、場所を問うことなく、迅速にかつ安全に看護を提供出来ることが必要であり、日々多様化する医療や疾患など、時代のニーズに

合わせ、柔軟に対応できることが必要であり、それが患者の安全を守ることにもつながると考えます。

認定看護師の役割である「実践」「指導」「相談」の役割を全うできるよう、日々学ぶ姿勢を忘れることなく、協働という言葉に常に意識し活動していきたいと思いますので今後とも宜しくお願いいたします。



救急看護認定看護師
黒木 晋作

【政府訓練】令和元年度 大規模地震時医療活動訓練 ～ DMAT 訓練で静岡と横浜に行ってきました！～

DMATとは、災害派遣医療チームのことです。

9月7日、首都直下型地震を想定したDMATの訓練に参加してきました！

【今回の参加メンバー】 医師：渡邊 龍太郎
看護師：西山 博子、立間 光義
業務調整員：那須 智久

【今回のミッション】

- ①『鹿児島空港から民間機で静岡空港へ！』
飛行機に乗る際は、モニターやエコーなどの医療機器や、衛星電話やトランシーバーなどの通信機器を機内に持ち込むため、航空会社によるチェックに時間がかかります。
DMAT 参集拠点である静岡空港に着いたら、レンタカーを借りました。
実際の災害時もレンタカーになります。
- ②『高速で横浜の参集拠点へ！』
翌日早朝から東名高速道路を3時間走らせ、DMAT 参集拠点である神奈川県横浜市の昭和大学藤が丘病院へ行きました。
写真は移動中の様子です。きれいな富士山を見ることができました。
- ③『横浜市内の活動拠点本部へ！』
同じく横浜市内にある横浜労災病院内 DMAT 活動拠点本部へ行くように指示を受けました。



- (実際は、時間の都合上、行ったテいで次の訓練へ)
- ④『病院支援のため大学病院へ！』
病院支援の指示を受け、昭和大学藤が丘病院の災害対策本部へ行き、そこで、本部そのものの支援活動をおこないました。
(ア) 籠城に必要な物資の調達や重症外傷患者の搬送を、衛星電話を使って DMAT 活動拠点本部へ依頼。
(イ) ミーティングをおこない、病院スタッフを休ませる方法や、トリアージエリアの場所の選定などについて提案。
(ウ) 患者搬送先の病院と、患者情報や搬送方法についてやり取り。

本部支援は分からないことばかりで、自分の未熟さを感じました。

勉強と訓練を重ねていこうと思います。

総合診療科 渡邊 龍太郎

NP 卒後研修 6 か月目を迎えて

4月から医行為・診療のプロセスについて指導医のもと研修を開始しました。まず3ヶ月は総合診療科、現在はER・HCUにて3ヶ月の研修中です。診療看護師は部署に所属していないため横断的に活動できます。各部署に何う中で看護師は忙しく行動し、医師は外来診療・手術を行いながら入院患者様の対応を行っており、患者様に対応する時間が限られてしまう現状を目の当たりにしたことで、患者様の「思い」に寄り添い、医師・看護師へ退院にむけての提案を行うことが診療看護師の役割の一つと気づき活動しています。

担当させて頂いた患者様と退院後の外来受診でお会いした際、元気な姿や笑顔だけでなく「入院中は本当にお世話になりました」という言葉を頂き感激し、少しは患者様の「思い」に寄り添えることができたのかなと嬉しく、今後の励みになりました。今後の研修においても患者様・スタッフに必要とされ、タイムリーに対応できる診療看護師を目指し頑張りますので、指導医の方々・スタッフの皆様、引き続きご指導宜しくお願いいたします。

診療看護師 財部 しのだ



AHA-PEARS プロバイダーコース

当院は、県境における救命救急センター的な役割を担っており、重症な患児も救急搬送・入院加療されています。今回、小児救急医療・看護の更なるレベルアップを目指し、8月17日(土) AHA-PEARS プロバイダーコース(主催:Child Future 熊本)を当院で開催して頂きました。本コースでは、講義・グループディスカッション・シミュレーションを通じて、患児の観察・評価・

小児救急の知識を身につけたいとの思いから、本コースを受講しました。研修は映像を見ながらの座学に始まり、ケースディスカッション、BLS 実践、シミュレーションの流れで行われました。

初期評価から一時評価を行っていく中で、観察→評価→介入を繰り返し行うことで、刻一刻と変化する小児の状態・重症度を把握することができ、最良な治療や介入ができるという事を学びました。

シミュレーションでは、実際の場面に近い状況で、5人の受

勤務中、救急出動指令が鳴らない日はありません。ですが、大半は成人の事案であり、小児救急に対する経験不足から苦手意識がありました。

そのような中に今回のコース開催の情報が入り、迷わず受講することを決めました。

コースでは、実際の患児の映像を見ながら思考した後、訓練人形を使用しシミュレーションを行う流れで進み、実践的に学

病態安定化を1日かけて学びます。内容が濃く時間もタイトではありますが、「未来ある子供達の為に」という受講生の高い意識のもと、集中して学べていたと思います。

今後も質の高い救急医療・看護を提供すべく、常に高い意識を持ち自己研鑽に努めてまいります。

救急センター
副看護師長 杉松 幸太郎



講生がチームとなり小児患者の対応にあたりました。シミュレーションを重ね、講義で学んだ知識を活かす事で、早期に適切な対応できるようになっていると実感する事ができました。

今後の看護実践につなげられる、とても意義のあるコースだったと思います。

救急センター 看護師 山田 里佳

ぶことができました。いかに早く生命危機状態に気づき、観察・評価・処置に繋げるというパターンを学べたことは、今後の救命士人生の大きな財産となりました。

今回のコース受講で、不安が全て解消されたわけではありません。これからも自己研鑽に努め、今回学んだ幹に枝葉を付けていきたいと思っています。

人吉下球磨消防組合 救急救命士 福田 裕一

新生「ACP 劇団」始動！ ～寸劇「縁起でもなか話ばすっばい」～

今年4月に住民へ広く ACP についての理解を促すため、院内に ACP チームが立ち上げられ、初めに ACP シートの作成、患者さんへの配布、ACP に関し職員へのアンケートを用いた周知活動などを計画しました。それと同時に ACP チームの中から「寸劇があったほうが、分かりやすいよね。」との声があり、ACP 劇団が立ち上げられました。

私は臨月の妊婦役を演じましたが、劇の練習が始まった当初は演技することに少し恥ずかしさを感じていましたが、練習を積み重ねる毎に役になりきり、他の役者も個人の演技により一層磨きがかかっていきました。

劇団立ち上げ後直ぐに、在宅医療・介護連携推進事業の住民向け講演会での前座のお話をいただき、8月24日に450名入るホールでお披露目公演となりました。

講演会講師の小笠原内科院長 小笠原文雄先生のご講演「なんとめでたいご臨終」の中でも ACP チームの寸劇に触れてい

ただき、また、ありがたいことに9月1日に当院で開催された病院フェスティバルでも2回目の講演を開催する時間を設けて頂きました。寸劇を観ていただいた方から「どうやって ACP をしたらいいんですか?」という質問をいただいたり、「おもしろかった」、「とても考えさせられた」など感想をいただき非常に嬉しく劇をはじめて良かったと思いました。

今後も、市民公開講座や地域への出前講座にて引き続き ACP についての広報、教育活動を予定しています。ACP チーム、まだまだやります！ご期待ください！！



医療福祉連携室 小田 薫子

特別臨床実習 - 地域医療 -

地域医療実習で3週間お世話になりました。総合診療科を主として様々な科を回り、特に総合診療、救急、訪問診療、五木村診療所では人吉の地域性が色濃く表れており学びが多かったです。

人吉周辺地域の救急患者のほとんどが人吉医療センターに運ばれており、軽傷から重症まで様々な疾患を見ることができました。知識として知っていても実際に手技をしてみると気づきが多くありました。動脈血採取では脈は触れているが意外と深層にあることなど、現場で体験して初めて知ることが多かったです。これからの実習で手技をさせていただける機会があれば積極的にしようと思いました。

総合診療科では1日2回の回診に参加し3週間という長い経過で患者さんを見ることが今までなかったのも、目に見えて回復する姿を見るとやりがいを感じました。回診は一人にさく時間は短いですが、数字だけではなく、患者さんの様子を見て

直接お話を聞くことができる、必要な時間であると感じました。

訪問診療では在宅医療の現場を見ることができました。当たり前ではありませんが家族構成も家庭の事情もそれぞれの家で違い、看護のかわり方も違ってきました。患者を診ることはもちろんですが、家族へのケアを特に考えられていたことが印象的でした。

五木村診療所では住民のみなさんの健康意識の高さに驚きました。そして診察からカルテ記載、処方までさせていただきよい経験となりました。

人吉はお酒もごはんも美味しく、温泉にもつかり（7か所行きました）、実習以外も充実しておりました。

今回の実習でお世話になったみなさま、本当にありがとうございました。

熊本大学医学部医学科 5年 田野 貴実子



地域協力会総会

8月26日(月)当院3F講堂にて、令和元年度人吉医療センター地域協力会総会が開かれました。

本会は、当院と地域住民の皆さんが連携を密にして、当院が地域とともに充実し発展していけるようにすることを目的とし、地域の方が主導で開催されています。

具体的には、近隣町内を中心とした住民で構成され、緊急時の入院患者の避難協力、防災訓練への参加、当院周辺の美化および花壇の植栽、当院が実施する各種事業への協力など様々な活動に取り組まれています。

総会には顧問の松岡隼人市長を含め40名の会員と当院職員32名、合わせて72名の出席がありました。丸尾会長からは、防災訓練への参加の呼びかけなど当院との協力関係の重要性につきお話があり、木村院長からも、近年の災害や社会情勢などから地域住民と病院が協力し合える地域づくりの重要性につき話がありました。顧問としてご挨拶いただいた松岡市長も、急性期病院である当院の役割の重要性に言及され、この地域にとって当院と住民、市が協力していく取り組みの大切さと有り難さについてお話いただきました。

総会終了後は意見交換会が行われ、ご出席の方々から病院への様々なご意見をいただきました。地域住民の皆さんと病院職員との親睦を深める貴重な機会となりました。

下川副院長による締めめの挨拶にて、今後も地域住民と協同して更なる地域に根付いた病院づくりをおこなっていくことを再確認して、閉会となりました。

医療福祉連携室 南 秀明



誤嚥予防体操

皆さんは食事中や水やお茶を飲んだ後に咽(むせ)た経験はありませんか。咽(むせ)は、気道に入った異物を外に出そうとする働きのため、誤嚥のサインとされています。そんな咽を防ぐためには、口腔器官(口唇・舌・頬)が適切に働いている必要があります。今回ご紹介するのは、5分程度でできるお口のための簡単なリハビリ運動です。毎食前に行ってみてください。

口腔体操



1 首の運動

- 1) 左右を向く 左→正面→右→正面 各5秒ずつ
- 2) 左右に傾ける 左→正面→右→正面 各5秒ずつ
- 3) 上下を向く 下→正面→上→正面 各5秒ずつ
- 4) 回す 左回り→右回り 各2周ずつ

2 肩の運動

- 1) ゆっくり上げ、ストンと下ろす 5回
- 2) 腕を回す 前回し→後回し 各10回ずつ

3 頬の運動

- 1) 片方ずつ頬を膨らませる 左→右 各5回ずつ
- 2) 両方膨らませて両手をあて、ぷとつぶす 5回

4 顔の運動

- 1) 口を尖らせて「ウー」10回
- 2) 口を横に引いて「イー」10回
- 3) 上を向いて口を横に広げて「イー」10回

5 唾液腺のマッサージ

両手を頬にあて、ゆっくり縁を書くようにマッサージ
前回し→後回し 各10秒ずつ

6 舌の運動

- 1) 前に出す→引っ込める 10回
- 2) 左右に動かす 10往復
- 3) 唇をゆっくりなめる 左回り→右回り 各2周ずつ

リハビリテーションセンター 言語聴覚士 片岡 士



ピンクリボン月間に寄せて

～10月は乳がん早期発見啓発月間です

国立がん研究センターの統計によれば、女性で最も多くがん罹患する部位は乳房で、76,257名の女性が新たに乳がんと診断されています。(2014年データによる)

しかし、がん罹患してから5年生存率は92.5%と甲状腺がんに次ぐ生存率の高いがんでもあります。(2006-2008年の診断例より)乳がんは早期に発見し、治療を行うことが可能ながんであり、治療を開始する時期によりその予後に大きく影響します。

当院では、病院フェスティバルなどのイベントで、休日のマンモグラフィ検診の実施や、乳房の触診体験など乳がんの早期発見への普及啓発活動をおこなっています。

また、乳がんの早期発見だけでなく、乳がんの手術を受けた方が気兼ねなく温泉などの公衆浴場を利用するため入浴着への理解を求める活動など予防から乳がん罹患した後までをサポートしています。

今回、10月のピンクリボン月間に合わせ、入浴着の展示、早期発見のための触診の仕方のパンフレット配布を行います。一人一人がちょっと関心をもっていただき、その輪が広がり、乳がんに対しての理解を少しでも促すきっかけになるよう女子力高めにディスプレイしますので、足を止めていただければ幸いです。

医療福祉連携室 社会福祉士 岡本 理恵

あなたのドナー登録で救える命があります。～10月骨髓バンク推進月間～

骨髓バンクをご存じですか？競泳の池井璃花子選手が白血病を公表された後、骨髓バンクについてのニュースを耳にすることが多くなりました。10月は骨髓バンク推進月間です。

白血病や再生不良性貧血等の血液疾患は、骨髓の組織にある造血細胞の働きが異常である為に起こる病気です。骨髓移植は正常な造血が行われなくなった患者さんの造血幹細胞を健康な方の造血細胞と入れ替える（実際はドナーから採取された造血細胞を点滴静注する）ことにより骨髓移植や末梢血管細胞移植を行い回復させる治療になります。(公財)日本骨髓バンクが公的機関として、造血細胞移植が必要な患者さんの為に血縁関係のない健康な人から提供される骨髓液や末梢血管細胞を患者さんにあてずする業務を担っています。

骨髓移植を成功させるためには、ドナーと患者のHLA型(ヒト白血球抗原の型)が適合する必要がありますが、一致する確率は兄弟姉妹間で4分の1、非血縁者間ではわずか数百から数万人分の一人と言われています。移植を待つ全ての患者さんを救うためには一人でも多くの方の協力が必要です。

骨髓バンクに登録するには？

熊本県では日赤プラザ献血ルームや、下通り献血ルームで登録受け付けが可能です。また、人吉保健所、天草保健所でも事前予約することでドナー登録が可能になります。

骨髓移植するには？

ドナー登録時に2ccの採血を行われます。その後ドナー候補者となればお知らせが届き3回～通院と骨髓採取の為に4～7日の入院が必要です。ドナーの方の費用負担はありません。まずは骨髓提供をしたいという本人意志、そして通院や入院に際しご家族や職場の方の協力も必要になります。

あなたにしか救えない命があります。この機会に骨髓バンクについて学んでみませんか？詳しくはJMPD日本骨髓バンクホームページをご覧ください。

医療福祉連携室 杉松 紗織

連携施設 探訪

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して 地域包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。

今回は「介護老人福祉施設 錦寿豊苑」さんです。

介護老人福祉施設 錦寿豊苑 Vol.31

【施設の特徴・理念】

1. 完全個室のユニット型施設
3つのユニット(生活単位)とパブリック空間(共同施設)に分けられ1ユニット9-10人の方が生活しています。
2. 良質な介護を提供する施設です。
従来の流れ作業的な集団処遇ではなく、入居者一人一人を尊重し、入居者に寄り添ったケアを心がけています。
3. その人らしい「いきいき」とした生活ができる施設です。
自立支援の介護はもちろん、相談や社会生活上の支援、機能訓練、健康管理等の支援も積極的に行います。
4. 優しさと笑い声の耐えない笑顔あふれる施設です。
入居者同士や家族、地域の人々との交流の場を設け、その人らしい生活が実現できるように努めます。

【対象者】

要介護3-5の認定を受けられた方(入所)

【サービスの内容】

地域密着型介護老人福祉施設 定員 29名
短期入所生活介護 4名



【地域の皆様に一言】

施設の周囲は残念ながら耕作放棄地になっています。県の『農と福祉の連携推進事業』を通じて、より地域に密着した施設となれるような活動を展開してゆきたいと思っています。

お近くまでお越しの際は、是非お立ち寄り下さいませ。

【お問い合わせ】

TEL：0966-38-3889 FAX：0966-38-2882

生活相談員 西 貴伸

【訪問者の感想】

平成22年10月25日に開設され、8年目に入る施設で、地域の障害者福祉施設との交流も盛んで、週2回一緒にミュージックトレーニング(一緒に歌を歌ったり、楽器を演奏したりする活動)やレクリエーション活動をされています。福祉施設の種別の垣根を越えた交流がある素晴らしい施設だと思いました。

救急フェア

9月7日に下球磨消防署で開催された救急フェアに人吉市女性消防隊として参加してきました。会場では、はしご車体験や放水体験、ロープアブリッジ体験など普段では体験できないコーナーがたくさんありとても盛り上がっていました。

今回、私たちは紙芝居と防災クイズ、防災グッズ作りを行いました。紙芝居とクイズのコーナーは、普段学校や保育園などで学んでいることなどを一生懸命教えてくれたり、恥ずかしがりながらも前へ出て回答してくれるなど、多くの子ども達に参加していただけてとても嬉しかったです。

防災グッズ作りでは、数種類用意していたグッズを全制覇する子や、「去年も作ったよ!」と2年連続で参加してくれた子、「自宅に帰ってからでも作っていた」との嬉しい声も頂きました。私も楽しく活動することができ、たくさんの笑顔を見ることができたので参加して良かったなと感じました。

現在、人吉市女性消防隊では一緒に活動していただける隊員の方を募集中です。人吉市内の施設での広報・啓発活動や、各種行事への参加などを行っています。まずは見学からだけでも大丈夫ですので、興味がある方のご連絡を心よりお待ちしております!

(連絡先: 人吉市役所 防災安全課 TEL: 0966-22-2111)

医療福祉連携室 小田 薫子



ゆかた会

8月24日、今年も開催しました“ゆかた会”! 植杉先生をはじめ着物着付け部のメンバーや子どもたち、今年も工藤真令奈先生がご参加くださり、涼しい夕暮れ時、一富士旅館さんでおいしい料理とお酒をいただきながら楽しいひとときを過ごしました。普段なかなか着る機会が少ない着物ですが、着物着付け部ではお正月には“青井さんへの初詣&新年会”、3月には“おひな会”、夏には“ゆかた会”と称し、着物を着てのお出かけを楽しんでいます。毎月第一土曜日にお稽古をしていますので、興味のある方は覗きにきてみてくださいね。



着物着付け部 永田 美妃

心リハ患者会

8月22日(木)に3階講堂にて第169回清流ハートクラブ(心リハ患者会)を開催しました。今回は「心肺蘇生法について」をテーマに行いました。

もしも目の前で誰かが倒れているなど、いざというときに遭遇した場合は、身体が動かず避けて通りたくなってしまうかもしれません。数年前、患者会に参加された方より「たまに練習する機会が必要ですね」という声を頂き、いざという時に備え、ここ数年間は毎年救急対応についてお話をさせていただいています。まずは心臓の働きや、なぜ心肺蘇生法が大切なのか、心肺蘇生法の手順について説明をさせていただきました。その後、実際に人形とAEDデモ器を使用し心肺蘇生法の一連の流れの体験と、あっぱくんという機械を使用し、胸骨圧迫の深さと速さの確認の体験をしていただきました。

今回一番嬉しかったことは、参加された全員の方に体験をしていただけたことです。これからも心リハスタッフ一同力を合わせて様々な情報を皆様にお伝えしていければと思います。

看護師 中矢野 幸代子



ボランティア

永年にわたり当院のボランティアとして患者さんのサポートにご尽力いただいております大村さんがボランティアを引退される運びとなりました。木村院長より感謝状を贈呈させていただきました。これからは地域において益々のご活躍されることをお祈り申し上げます。

《大村さんからコメント》

最初のボランティアとして、患者さんから分からないことなどを聞かれたときには、イライラや不安を取り除けるように関わることを心掛けていました。時にはトラブルもあったけれど皆さんから「ありがとう」など感謝の言葉をかけてもらえた時には“ボランティアをやっているよかったな”と心から感じました。いままで本当にありがとうございました。



9月の勉強会報告

9月9日(月)中外eセミナー on Hemophilia

「荻窪病院におけるヘムライブラ導入の実践」

9月12日(木)第107回消化器カンファレンス

「H.pylori除菌時代における胃上皮性腫瘍の取り扱い〜早期胃癌のPPI除菌治療も含めて〜」

熊本大学病院 消化器内科 特任助教 具嶋 亮介先生

9月19日(木)アドバンス ケア プランニング(ACP)研修会

「地域におけるアドバンス ケア プランニング(ACP)」

国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域医療連携推進部

地域医療連携室長 西川 満則先生

9月27日(金)第66回 人吉・球磨最新医療研究会

「日本の移植はいかに世界に貢献できるか?」

熊本大学大学院生命科学研究部 小児外科学・移植外科学分野

教授 日比 泰造先生

新 任 紹 介



まつだ はるか
松田 春香

最終卒業校: 藤元メディカルシステム付属医療専門学校

趣味: 映画鑑賞

好きな言葉: 生きてるだけで100点満点(恩師からの言葉)

自分の性格: 負けず嫌い

自分のコマーシャル: 今までの経験を活かせるように、一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。

